

腸管出血性大腸菌（^{オー}O146）感染症患者の発生について

平成29年8月14日付けで公表した腸管出血性大腸菌感染症O157（VT2）患者の家族等接触者の健康状況調査を実施したところ、1名から腸管出血性大腸菌が検出されましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 患者の発生状況

- (1) 患者 市内在住の男性（60歳代）
- (2) 経緯 8月16日（水）富山市保健所が接触者の健康状況調査（検便）を実施。
22日（火）腸管出血性大腸菌O146（VT1、VT2）検出。
腸管出血性大腸菌O157（VT2）は検出されず。
- (3) 診断 8月22日（火）腸管出血性大腸菌O146（VT1、VT2）感染症と診断。
- (4) 症状 無症状

2 患者及び感染源調査

- (1) 患者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- (2) 患者の健康状況調査を実施

3 対応

- (1) 患者及び接触者に対し衛生教育を実施
- (2) 患者自宅の消毒を指示

4 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況【参考】

別紙のとおり

予防対策について

- 食べ物は十分加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
- 手洗いと消毒を徹底しましょう（調理の際、食事の際、トイレの後など）
- 下痢等の症状がある場合は、速やかに医師の診察を受けましょう

【参考】

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況（患者数）

	平成 29 年	平成 28 年 同時期延べ数	平成 28 年 総数
	県内 (うち市内)	県内 (うち市内)	県内 (うち市内)
O157	11 (8)	0 (0)	4 (3)
O26	8 (1)	3 (1)	39* (34)
O145	0 (0)	1 (0)	1 (0)
O121	0 (0)	3 (0)	3* (0)
O91	3 (0)	0 (0)	0 (0)
O146	1 (本事例) (1) (本事例を含む)	0 (0)	0 (0)
腸管出血性 大腸菌感染症 計	23 (10)	7 (1)	47 (37)

※O26及びO121の混合感染1名はそれぞれに含む。